



薬生血発 0308 第 1 号
平成 29 年 3 月 8 日

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課長 殿

厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課長



若年者を対象とした血液一般及び献血に関する正しい知識の普及について

献血の普及啓発につきましては、日頃より格段の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度、血液一般及び献血に関する正しい知識の普及に資するため、高校生用及び教員用テキスト「けんけつ HOP STEP JUMP」を作成いたしました。

つきましては、当該資材の積極的活用について、貴職より各都道府県・指定都市教育委員会学校保健主管課、各都道府県私立学校主管課、附属学校を置く国立大学法人事務局及び各国公私立高等専門学校事務部へ周知いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

なお、貴職から文書を発出いただいた後、当職より別添 1 のとおり各都道府県衛生主管部（局）長宛て協力依頼通知を発出するとともに、別添 2 のとおり各高等学校長（中等教育学校校長及び特別支援学校長を含む）宛てに平成 29 年度 3 年生生徒分及び教員分の資材を送送する予定です。

薬生血発 第 号
平成 29 年 月 日

各都道府県衛生主管部（局）長 殿

厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課長
（ 公 印 省 略 ）

若年者を対象とした血液一般及び献血に関する正しい知識の普及について

血液事業の推進につきましては、日頃より格段の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度、血液一般及び献血に関する正しい知識の普及に資するため、高校生用及び教員用テキスト「けんけつ HOP STEP JUMP」を作成し、各高等学校（中等教育学校及び特別支援学校を含む）宛て直接送付する予定です。

高等学校等への配布に当たっては、別添のとおり文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課長から、各都道府県・指定都市教育委員会学校保健主管課、各都道府県私立学校主管課、附属学校を置く国立大学法人事務局及び各国公私立高等専門学校事務部宛てに通知が発出されていますので、教育主管部局とも十分連携を取り、当該資材の活用並びに血液一般及び献血に関する正しい知識の普及に特段の御配慮をお願い申し上げます。

また、貴職宛てに当該資材を別途送付いたしますので、貴都道府県庁内で御活用いただきますようよろしくお願いいたします。

なお、各高等学校（中等教育学校及び特別支援学校を含む）に対しては、平成 29 年度 3 年生生徒分及び教員分をお送りすることを申し添えます。

各

高等学校長
高等専門学校長

 殿

拝啓

献血の普及啓発につきましては、日頃より格段の御高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、近年の献血者数は、血液事業関係者の皆様の御尽力と国民の皆様の御理解と御協力により、平成 27 年度は、延べ約 488 万人の方々に献血に御協力をいただきました。

しかし、10 代（16 歳～19 歳）の若年層で見ると、15 年前の平成 12 年度には約 61 万人（献血率約 10.1%）であった献血者は、現在は約 26 万人（献血率約 5.4%）と減少しています。

厚生労働省では、少子高齢社会の進展も踏まえると、今後の血液事業を支えていただくために、将来を担う若年層の方々に献血について理解を深めていただくことが重要と考えており、その一環として、血液一般及び献血に関する正しい知識の普及に資するため、平成 2 年度より、「けんけつ HOP STEP JUMP」を配布しています。

この度、同資材の平成 29 年度版を作成いたしましたので送付させていただきます。

血液事業についての正しい知識を高校生の皆さんにもってもらふことの意義を御理解いただき、同資材を貴校の保健体育科の授業で御活用いただければ幸いです。

また、日本赤十字社では、血液センターへの見学の受入れや、血液の専門家が学校へ出向いての勉強会・講演等も行っており、これらを併せて御活用いただくことにより、高校生の皆さんに血液事業を、より一層理解していただけるのではないかと考えています。詳細は、貴校所在の各都道府県の血液センターまでお問い合わせください。

なお、資材の送付数量については、貴校の平成 29 年度の 3 年生の生徒数を参考にしてありますが、適宜他の学年に配布していただいても差し支えありません。

最後に、アンケートについては、今後の献血推進事業の参考とさせていただきたいので、御手数ですが、平成 29 年 5 月 31 日までに F A X にて返信いただけますと有り難く存じます。

今後とも、献血の普及啓発に格段の御理解と御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

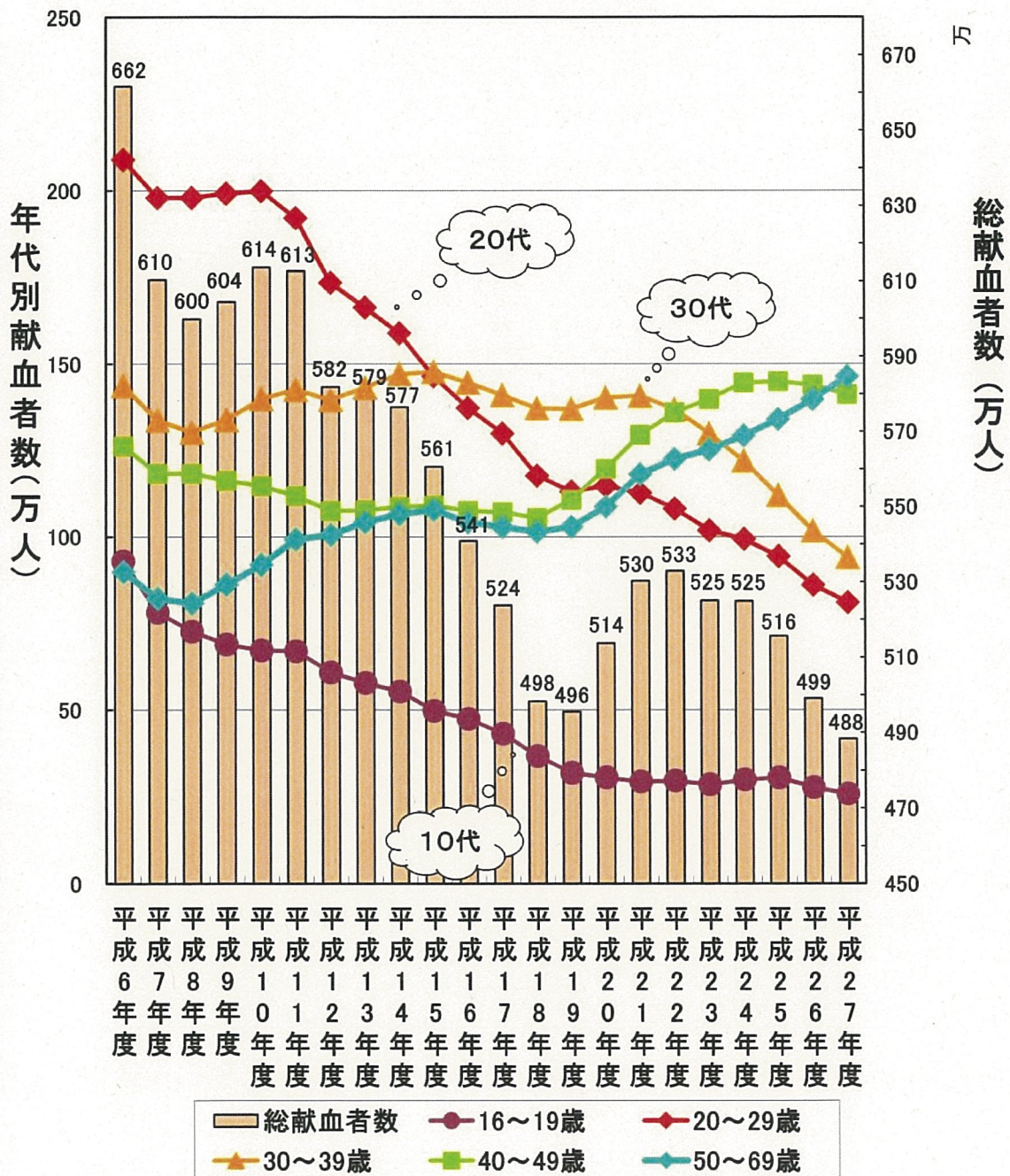
敬具

平成 29 年 月 日

厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課長

(参考資料)

献血者数の推移



(厚生労働省 医薬・生活衛生局 血液対策課 献血推進係行)

FAX : 03-3507-9064

《 この資料を御活用後、以下の質問にお答えください 》

■今後の献血事業の参考にさせていただきます。

■なお、本資材は平成 29 年度高校 3 年生分を念頭に送付していますが、各学校の実情により、適宜御活用いただきますよう、お願い申し上げます。

【問1】 貴校では、本資材をどのように利用されていますか。（利用する予定ですか。）

1. 校内での献血実施時に配布している 2. 保健体育の授業で使用している
3. 献血セミナー時に配布している
4. その他の授業で使用している（使用した授業： ）
5. 配布するのみ
6. その他（ ）

【問2】貴校では、本資料を何年生に配布しましたか。(配布する予定ですか。)

(※平成 29 年度 4 月時点での学年で回答をお願いいたします。)

1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生 4. その他 ()

【問3】本資料の内容について、生徒の献血への関心を高めるためのアイデアや改善すべき点があれば、御記入ください。

御協力いただき、誠にありがとうございました。

御手数ではございますが、下記連絡先まで、平成 29 年 5 月 31 日までに F A X にて御返送いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

都道府県

貴 校 名 _____

御担当者名 _____

【連絡先】

厚生労働省医薬・生活衛生局

血液対策課 献血推進係

〒100-8916 東京都千代田区霞が関 1-2-2

電話：03-5253-1111（內線 2908）

FAX : 03-3507-9064



薬生血発 0308 第 3 号
平成 29 年 3 月 8 日

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課長 殿

厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課長



学校における献血に触れ合う機会の受入れについて（依頼）

献血の普及啓発につきましては、日頃より格段の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、平成 27 年度においては、血液事業関係者の皆様の御尽力と国民の皆様の御理解と御協力により、延べ約 488 万人の方々に献血の御協力をいただきました。

しかし、10 代（16 歳～19 歳）の若年層で見ると、15 年前の平成 12 年度には約 61 万人（献血率約 10.1%）であった献血者数は、現在は約 26 万人（献血率約 5.4%）と減少しています。

厚生労働省では、少子高齢社会の進展も踏まえると、今後の血液事業を支えていくために、将来を担う若年層の方々に献血について理解を深めていただくことが重要と考えています。

また、高校時代における献血体験が、その後の献血行動の動機付けになるなど、献血者の啓発に効果的であることが平成 23 年度に実施した「若年層献血意識調査」の結果から報告されています。

つきましては、厚生労働省では、従来より、日本赤十字社及び都道府県と協力し、高校生等の皆さんに、献血に触れ合う機会を設けてきたところであり、今後これを一層強化していく予定です。

貴職におかれましては、かかる趣旨を御理解いただき、献血セミナーや学校献血等の献血に触れ合うための機会を、高等学校（中等教育学校及び特別支援学校を含む）が積極的に受け入れていただけるよう、各都道府県・指定都市教育委員会学校保健主管課、各都道府県私立学校主管課、附属学校を置く国立大学法人事務局及び各国公私立高等専門学校事務部へ周知いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

なお、貴職から文書を発出いただいた後、当職より別添のとおり各都道府県衛生主管部（局）長宛て協力依頼通知を発出する予定です。

献血について

献血の流れ

初めて献血いただく方へ

〈血液の量、献血の量〉

人間の血液の量は、体重のだいたい13分の1と
言われています。医学的には、人間の血液の量の12%を献血し
ても、身体に影響がないことがわかっています。

皆さまには、安全な量の献血をお願いしてあり
ます。

〈目安〉

あなたの 体重は	血液の量 (体重の13分の1)	採血可能な血液の量 (血液量の12%)
50kg	3800mL	450mL
65kg	5000mL	600mL
78kg	6000mL	720mL

献血後の身体は、血液の「量」は水分の摂取に
より短時間で回復します。

しかし、血液の成分により、回復する速さは異なり
ます。

回復する速さは、血漿成分が約2日で一番速く、
次に血小球成分が約4～5日、最後に赤血球が
約2～3週間かかります。なお、これらには個人差
があり、あくまでも目安です。

次回の献血はこれらの期間を考慮し、献血して
いただく方の安全を守るため、基準を設けてあり
ます。

1 献血受付



「お願い」パンフレット及び「献
血の同意説明書」をお読みいた
さき、内容について同意いただいた
うえで、献血の受付を行います。

問診回答



献血される方の安全と患者さんが
安心して輸血を受けられるよう、
献血をお申し込みいただいた方の
健康状態を問うために、質問事項
にご回答いただきます。

・献血は、健康な方ならば、献血による身体への影響は
ほとんどありません。

・皆さまの健康を守るため、献血にはさまざまな基準
(年齢、体重、血圧、ヘモグロビン濃度、問診など)が
あります。健康状態を十分確認したうえで行いますが、
時には体調を崩される場合もあります。

2 問診および血圧測定



ご回答いただいた内容に基づいた
問診と血圧測定を行います。

ヘモグロビン等の測定、血液型の事前判定



少量の血液を採血し、貧血の心配
がないかヘモグロビン濃度の測定
と血液型の事前判定を行います。
成分献血の場合は、血小版数の判
定も行います。

・針を刺したときの痛みは、すぐにやわらぎます。いつま
でも痛みが強い、強い痛みがあれば、直ちにお近く
の看護師、医師などにお知らせください。

・針や血液パックなど、献血に使用する資材は、感染を
防止するため、1回のみの使用(使い捨て)となってい
ますので、ご安心ください。

3 献血(成分、400mL、200mL)



採血ペッドに刺になり献血です。
献血用の針を刺します。
採血にかかる時間は、
400mL・200mL献血で10～15分
程度かかります。
成分献血は採血量に応じて、
40～90分程度の時間がかかります。

4 休憩



献血後は、休憩場所まで水分を十分
に摂取いただき、30分程度の休
憩をおとってください。
献血直後にトイレへ行く際は、職
員にお断りください。また、座
位で行うようにしてください。



ジュース(スポーツドリンク)
お茶などで十分補給してください。



寒気を感じる場合は、
その場から十分な休憩(30分以上)
をとってください。

献血後の過ごし方について

- ・トイレ
 - ・エレベーター、階段
 - ・入浴
 - ・スポーツ
 - ・重労働
- 採血直後の排尿は座位で行ってください。
使用する際は、特に注意してください。
2時間以内の入浴と当日のサウナは避けてください。
水泳、マラソンなど激しいスポーツは避けてください。
採血側の腕に強い力がかからないようお願いいたします。



献血キョウクター
けいけいちゃん

献血の種類と採血の基準

項 目	全血献血		成分献血	
	200mL全血献血	400mL全血献血	血漿成分献血	血小板成分献血
1回献血量	200mL	400mL	600mL以下 (循環血液量の 12%以内)	400mL以下
年 齢	16～69歳※	男性:17～69歳※ 女性:18～69歳※	18～69歳※	男性:18～69歳※ 女性:18～54歳
体 重	男性:45kg以上 女性:40kg以上	男女とも50kg以上	男性:45kg以上 女性:40kg以上	
最高血圧	90mmHg以上			
血色素量	男性:12.5g/dL以上 女性:12.0g/dL以上	男性:13.0g/dL以上 女性:12.5g/dL以上	12.0g/dL以上 (赤血球指数が 標準域にある女性 は11.5g/dL以上)	12.0g/dL以上
血小板数				15万/ μ L以上
年間献血回数	男性:6回以内 女性:4回以内	男性:3回以内 女性:2回以内	血小板成分献血1回を2回分に換算して 血漿成分献血と合計で24回以内	
年間総献血量	200mL献血と400mL献血合わせて 男性:1,200mL以内 女性:800mL以内			

献血にご協力いただける方の安全を第一として国が定めた基準等により、医師が総合的に判断してお願いしています。
※65歳以上の献血については、献血される方の健康を考え、60～64歳の間に献血経験がある方に限ります。

献血セミナーの実施について

日本赤十字社では、将来の献血を支えていただける高校生や小中学生を対象に、献血の意義や血液製剤についての理解を深めていただく取り組みとして、「献血セミナー」を学校へ出向いて積極的に実施し、輸血用血液製剤が安定的に供給される体制を維持するよう努めています。

実施内容

1. スライドによる説明

- (1) 献血の現状について
- (2) 献血の沿革について
- (3) 血液(赤血球・白血球・血小板)について
- (4) 輸血用血液製剤の種類について
- (5) 献血について
- (6) 検査、製剤、供給について
- (7) 血液の使われ方について
- (8) 献血推進キャンペーンについて
- (9) いのちの大切さについて



2. 映像放映

- (1) 日本赤十字社の活動及び血液事業に関する映像
- (2) 輸血を受けた患者さんに関する映像

3. その他

- (1) 献血に関するパンフレット等の配布
- (2) アンケートへのご協力や感想文のお願い



実施にあたって

1. 実施内容については、ご相談のうえ決定させていただきます。
2. 実施時間については、30分～60分程度を想定しておりますが、事前にご相談のうえ決定させていただきます。

＜献血セミナーに関するお問合せ先＞

最寄の血液センターまでお願いいたします。なお、連絡先については、別添をご覧ください。

全国赤十字血液センター 一覧

平成28年12月31日現在

No.	赤十字血液センター名	郵便番号	住所	電話番号(代表)	問合せ窓口
1	北海道赤十字血液センター	063-0802	札幌市西区二十四軒2条1-1-20	011-613-8335	献血推進担当部門
2	青森県赤十字血液センター	030-0966	青森市花園2-19-11	017-741-1511	
3	岩手県赤十字血液センター	020-0831	盛岡市三本柳6-1-6	019-637-7200	
4	宮城県赤十字血液センター	981-3206	仙台市泉区明通2-6-1	022-290-2501	
5	秋田県赤十字血液センター	010-0941	秋田市川尻町字大川反233-186	018-865-5541	
6	山形県赤十字血液センター	990-0023	山形市松波1-18-10	023-622-5301	
7	福島県赤十字血液センター	960-1198	福島市永井川字北原田17	024-544-2550	
8	茨城県赤十字血液センター	311-3117	東茨城郡茨城町桜の郷3114-8	029-246-5566	
9	栃木県赤十字血液センター	321-0192	宇都宮市今宮4-6-33	028-659-0111	
10	群馬県赤十字血液センター	379-2154	前橋市天川大島町2-31-13	027-224-2118	
11	埼玉県赤十字血液センター	337-0003	さいたま市見沼区大字深作955-1	048-684-1511	
12	千葉県赤十字血液センター	274-0053	船橋市豊富町690	047-457-0711	
13	東京都赤十字血液センター	162-8639	新宿区若松町12-2	03-5272-3511	
14	神奈川県赤十字血液センター	243-0035	厚木市愛甲1837	046-228-9800	
15	新潟県赤十字血液センター	951-8127	新潟市中央区関屋下川原町1-3-12	025-230-1700	
16	山梨県赤十字血液センター	400-0062	甲府市池田1-6-1	055-251-5891	
17	長野県赤十字血液センター	381-2214	長野市稲里町田牧1288-1	026-214-8070	
18	富山県赤十字血液センター	930-0821	富山市飯野26-1	076-451-5555	
19	石川県赤十字血液センター	920-0345	金沢市藤江北4-445	076-254-6300	
20	福井県赤十字血液センター	918-8011	福井市月見3-3-23	0776-36-0221	
21	岐阜県赤十字血液センター	500-8269	岐阜市茜部中島2-10	058-272-6911	
22	静岡県赤十字血液センター	420-0881	静岡市葵区北安東4-27-2	054-247-7141	
23	愛知県赤十字血液センター	489-8555	瀬戸市南山口町539-3	0561-84-1131	
24	三重県赤十字血液センター	514-0003	津市桜橋2-191	059-229-3580	
25	滋賀県赤十字血液センター	525-8505	滋賀県草津市笠山7丁目1-45	077-564-6311	
26	京都府赤十字血液センター	605-0941	京都市東山区三十三間堂廻り町644	075-531-0111	
27	大阪府赤十字血液センター	536-8505	大阪市城東区森之宮2-4-43	0120-32-6759	
28	兵庫県赤十字血液センター	651-0073	神戸市中央区脇浜海岸通1-4-5	078-222-5011	
29	奈良県赤十字血液センター	639-1123	大和郡山市筒井町600-1	0743-56-5916	
30	和歌山県赤十字血液センター	649-6322	和歌山市和佐関戸118-5	073-499-7724	
31	鳥取県赤十字血液センター	680-0901	鳥取市江津370-1	0857-24-8101	
32	島根県赤十字血液センター	690-0882	松江市大輪町420-21	0852-23-9467	
33	岡山県赤十字血液センター	700-0012	岡山市北区いずみ町3-36	086-255-1211	
34	広島県赤十字血液センター	730-0052	広島市中区千田町2-5-5	082-241-1246	
35	山口県赤十字血液センター	753-8534	山口市野田字野田172-5	083-922-6866	
36	徳島県赤十字血液センター	770-0044	徳島市庄町3-12-1	088-631-3200	
37	香川県赤十字血液センター	761-8031	高松市郷東町字新開587-1	087-881-1500	
38	愛媛県赤十字血液センター	791-8036	松山市高岡町80-1	089-973-0700	
39	高知県赤十字血液センター	780-8010	高知市棧橋通6-7-44	088-833-6666	
40	福岡県赤十字血液センター	818-8588	筑紫野市上古賀1-2-1	092-921-1400	
41	佐賀県赤十字血液センター	849-0925	佐賀市八丁畷町10-20	0952-32-1011	
42	長崎県赤十字血液センター	852-8145	長崎市昭和3-256-11	095-843-3331	
43	熊本県赤十字血液センター	861-8039	熊本市東区長嶺南2-1-1	096-384-6000	
44	大分県赤十字血液センター	870-0889	大分市大字荏隈717-5	097-547-1151	
45	宮崎県赤十字血液センター	880-8518	宮崎市大字恒久885-1	0985-50-1800	
46	鹿児島県赤十字血液センター	890-0064	鹿児島市鴨池新町1-5	099-257-3141	
47	沖縄県赤十字血液センター	902-0076	那覇市与儀1-4-1	098-833-4747	

別添

薬生血発 第 号
平成 29 年 月 日

各都道府県衛生主管部（局）長 殿

厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課長
（ 公 印 省 略 ）

学校における献血に触れ合う機会の受入れについて

血液事業の推進につきましては、日頃より格段の御高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度、学校における献血セミナーや学校献血等の献血に触れ合う機会を積極的に受け入れていただけるよう、別添のとおり文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課長から各都道府県・指定都市教育委員会学校保健主管課、各都道府県私立学校主管課、附属学校を置く国立大学法人事務局及び各国公私立高等専門学校事務部宛てに通知が発出されていますので、教育主管部局、貴管内市町村及び赤十字血液センターとも十分連携を取り、学校献血や献血セミナーの受け入れ等に特段の御配慮をお願いいたします。